

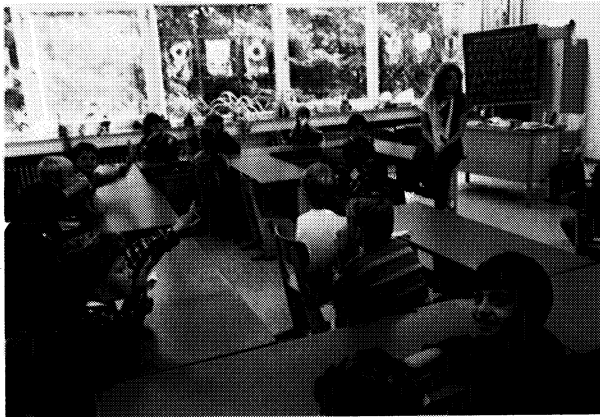
世界の教育は、今。

海外教育事情の紹介

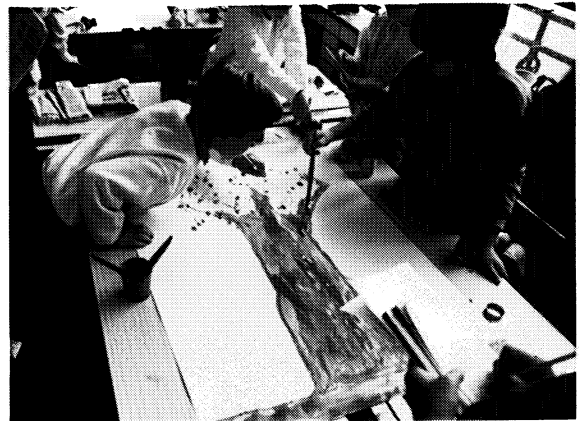
一人一人の確かな存在

— 東ドイツ・ベルギー・アメリカ —

西ドイツのニーダーザクセン州デルメンホルスト市の小学校訪問が、海外教育視察の第一歩である。教室の雰囲気はまことに柔らかく伸びやかであった。この国の小学校は四年制であり、卒業時には能力に応じて進路が振り分けられる。将来大学に進むためには、ギムナジウムという中等学校に進学しなければならぬというきびしい中で、意外という感じさえあった。しかしその答えは授業の中にあつた。先生はとても柔軟であり、学習も画的でなく一人一人を学習過程にうまく存在させている。これが子供たちの心理的ゆと



デルメンホルスト市パーク小学校3年国語の授業 (西ドイツ)



ヴィルボルト市小学校4年図工の授業 (ベルギー)

ベルギーの先生から「日本の子供は、ベルギーの子供の倍は勉強していますね」と言われた。週五日制でしかも水曜日は半日という自分の国の状況に対し、日本の子供たちのたくさんの宿題、土曜日にも勉強してさらに塾通いという様子を知っているのお話なので、あまりにうなずくだけにした。

アメリカの子供たちはとりわけ明るい。笑顔がいい。長い海外視察で疲れ気味の心が洗われるような対応であった。日常の学校生活がうかがえる表情であった。教室訪問はどこでも自由に……というので勝手に校舎を巡って参観した。ミシガン州ディアボーン市スノー

りを醸成しているものになっていいると思つた。

六年生の複式学級があつた。クラスを編成して定数より多いときは、はみ出した数を合わせて複式にしているようである。一人でも多いと学級が増える我が国の学級編成からは理解できないことであつた。しかしその教室に入ってみると、学年の区別は一見してわからないほど一人一人の学習を核にして、個別的、個別的に指導を進めているその学習状況にすつかり引き込まれてしまった。



ディアボーン市スノー小学校5・6年の複式学級 (アメリカ)

教育の質について、いろいろ考えながらの
一か月の教育事情視察であつた。

昭和六十年年度文部省教員海外派遣
長期第十三団

郡山市立開成小学校長

吾妻 和郎